

●計画の柱立てについて

基本理念

認知症の人を含めた県民一人ひとりがその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重して支え合う共生社会とくしまの実現

重点戦略

▶ 重点戦略1 「新しい認知症観」の理解促進

「認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望をもって自分らしく暮らし続けることができる」という新しい認知症観の県民理解を促進する

▶ 重点戦略2 認知症の予防

※「予防」とは、「認知症にならない」という意味ではなく、「認知症になるのを遅らせる」、「認知症になっても進行を緩やかにする」という意味

認知症予防に資する可能性があるとし唆される、運動習慣、適切な栄養、社会参加に関連するフレイル予防、生活習慣病予防について、積極的に推進する

▶ 重点戦略3 認知症の人の意思が尊重され、家族等を含め安心して暮らせる地域づくり

認知症の人と家族等の声を聴きながら生活における障壁を除去し、必要な社会的支援につなげることができる体制整備を進め、社会参加の機会確保等によって生きがいや希望をもって暮らすことができる地域づくりを推進する

取組方針

- (1) 県民の理解促進
- (2) 生活におけるバリアフリー化の推進
- (3) 社会参加の機会の確保
- (4) 意思決定の支援及び権利利益の保護
- (5) 認知症の予防**
- (6) 保健医療サービス及び福祉サービスの提供体制の整備
- (7) 相談体制の整備

・ 前回会議での御意見を踏まえ、「認知症の予防」を5番目に位置づけ。
・ 「研究等の推進等」については、他の項目に包含することにより、項目からは省略。

●アンケート調査及び本人・家族からの意見聴取の結果反映について（案）

調査結果の傾向

○アンケート

＜県民＞

- ・認知症に対するイメージでは、「認知症になっても希望を持って日常生活を過ごすことができる」の回答が少ない。
- ・「認知症の人と積極的に関わりたいと思いますか」では、『あまりそう思わない・全くそう思わない』の回答が多い。

＜県民・家族・専門職＞

- ・認知症に対する不安では、「家族や、家族以外の周りの人に負担をかけるのではないか」の回答が多い。

＜家族＞

- ・「認知症の診断を受けたあなたのご家族が生きがいや希望をもって暮らしていると思いますか」では、『あまりそう思わない・全くそう思わない』の回答が多い。

参考

県民の認知症の人に関する考え方では、「認知症の人とちゅうちょなく話せる」以外の設問において、認知症の認知度と統計学的な有意差は認められなかった。

○本人・家族からの意見聴取

- ・社会の偏見が気になって認知症と公言できない人が多いと感じる。（本人）
- ・日常生活でよく利用する小売店や公共交通機関の従業員に、認知症の理解をして欲しい。（本人）
- ・仲間とつながることのできる場所があると良い。（家族）

計画への反映

（１）新しい認知症観の理解促進のため、本人発信を含む実感的理解を深める啓発を図る

- ・普及啓発の企画段階から、本人・家族の参画
- ・認知症カフェやチームオレンジの更なる周知
- ・「とくしま希望大使」を含めた本人・家族と連携した認知症サポーター養成等

（２）認知症バリアフリーの取組を推進するとともに、社会参加の機会拡充等を図る

- ・「認知症バリアフリー社会実現のための手引き」活用
- ・適切な医療・介護サービスが提供できるよう、認知症対応力向上研修等の実施
- ・居場所づくりのための認知症カフェの設置促進
- ・ピアサポート活動の充実
- ・見守り協定締結機関等と連携した見守り体制の強化